



セッション情報

フォーラム

[1F2] 分子生物学x生態学：生物学を原点に回帰する Part II

2018年11月28日(水) 19:15 ~ 20:45 第2会場 (3階 301)

オーガナイザー:荒川 和晴(慶應義塾大学先端生命科学研究所)、オーガナイザー:東樹 宏和(京都大学)

【日本分子生物学会・日本生態学会合同企画】

[J]

分子生物学と生態学は、ゲノム情報の蓄積とその解析技術の進歩により急激にその距離を縮めつつあります。分子生物学者は非モデル生物を扱いはじめ、生態学者は分子生物学的手法を取り入れてきました。分子生物学と生態学が手を結ぶことで生物学の未開拓領域に切り込めるでしょうか？本フォーラムでは、日本分子生物学会と日本生態学会の合同企画として、同日に開催予定の両分野の融合的研究の最前線を紹介するワークショップに続き、分子生物学x生態学の今後のさらなる融合や共同研究への発展について議論します。両分野を代表するパネリストからの情報提供を元に、パネルディスカッションを行います。本フォーラムが今後の生物学を支える新たな共同・融合研究へと繋がるきっかけとなれば幸いです。

趣旨説明 (19:15 ~ 19:20)

19:20 ~ 19:32

[1F2-1] 頑健な代謝制御システムが支えるショウジョウバエ広食性種の栄養環境への適応

○上村 匡¹ (1.京都大学大学院生命科学研究科)

19:32 ~ 19:44

[1F2-2] 表現型可塑性の生物学～生態・発生・進化の融合

○三浦 徹¹ (1.東京大学大学院理学系研究科・附属臨海実験所)

19:44 ~ 19:56

[1F2-3] 分子生物学者と生態学者は同じ方向を向けるのか？

○牧野 能士¹ (1.東北大学大学院生命科学研究科)

19:56 ~ 20:08

[1F2-4] 超高機能構造タンパク質探索に向けたクモ類網羅的シーケンシング

○荒川 和晴¹ (1.慶應義塾大学先端生命科学研究所)

20:08 ~ 20:20

[1F2-5] 異分野融合プロジェクトで複雑共生系を設計・構成・制御する

○東樹 宏和¹ (1.京都市大学生態学研究センター)

パネルディスカッション (20:20 ~ 20:45)